

# おおや OHYA

2023  
VOL. 66

静岡大学教育学部同窓会誌



Faculty of Education, SHIZUOKA UNIVERSITY

幸福度



同窓会 会長  
山田 幸男  
(昭46年・小卒)

新型コロナウイルス感染症も終息に向かい、新緑の中を通学する子どもたちの声も心なしか大きく聞こえ、気持ちも和んできます。子どもたちの幸福を願うばかりです。

ところで、先頃、学校関係者から、このごろの子どもたちの様子について興味深い話をうかがいました。話を要約すると、

『子どもたちがつま先だって歩いてる。部活で見せる顔や友だちに見える顔などキャラだけで生きてる。感情を伴わない認知や五感で感じとれない子が目につく』といった内容でした。

子どもたちは、学校生活や家庭生活に満足しているだろうか、生きづらさや息苦しさを感じていないだろうか、等々考えさせられました。

そんな折に、昨年の小中高校生の自殺者数が過去最高になったとの報道がありました。また、ユニセフが公表した子どもの幸福度(精神的な

もの)では、日本は先進国の中で最低レベルにありました。

最近の子どもたちの様子、過去最高の自殺者数、そして低い幸福度、以上のような現状は一口で言えば社会全体が醸し出している空気が、子どもたちに大きな影響を与えているに違いない、と考えます。

これらの現状を、私たちはより一層深刻に受け止めていかなければなりません。

かつて勤務先で、家庭の皆さんに教育の当事者としての意識を、より一層高めていただきたく、子育てに関する標語を募集しました。その中の一つを紹介します。なお( )内は標語に込めた思いです。

『話す声 瞳を向けて 心も向けて』  
(ただ耳を傾げるだけでなく、目を合わせ、彼女の仕草からも心を感じとること。思春期の娘たちの少ない言葉の中から気持ちを汲みとるための私のコツです)

標語にあるような、手を抜くことのない日々の暮らしの中で育った子どもは、幸福度も高いものになることでしょう。

さて、国も危機感を持ち、この四月には、『子ども真中社会』を基本理念に、子ども家庭庁を発足させ、

自殺対策や児童虐待等への対応に当たるとのことです。

社会を『子ども真中社会』といった空気で満たし、子どもを社会全体で育てるという環境をつくって欲しいと思います。教育は国家百年の大計であります。仏作って魂入れず、にならぬよう、願うものです。

話は前後しますが、先の学校関係者は、

「今時の子どもは、ビデオを2倍速で見ているんですよ。とてもついでいけません」

と、苦笑交じりに話していました。そこで思い出すのが、数年前の購読紙のコラムです。その中で筆者はポピュラー音楽の前奏、いわゆるイントロが大幅に短くなった、ということです。ネット上の音楽は、気に入らなければ数秒で別の曲に変えられてしまう、前奏が短くなったのは耳の争奪戦に勝つための工夫なのだろう、と分析しています。

また、最近では「タイパ」「チャットGPT」等の言葉を耳にします。「タイパ(タイムパフォーマンス)の略、『時間』対『効果』の意味」の考え方は限られた時間で効率よく情報を集めたい働き盛りの世代に指示されています。チャットGPTは、

あらゆる質問に自動で回答してくれる次世代AIです。

2倍速でのビデオ鑑賞、短くなったイントロ、タイパ、チャットGPT、これらには時間の節約、効率化といった相通じるものがありそうです。これから私たちの生活にどのような変化をもたらすのでしょうか。心配になります。

先のコラムの筆者は『イントロにあたるものは、おそらく暮らしの中にもある、一日の始まりに窓を開けて光と風を入れる。仕事の前に一杯のコーヒーを飲む。師走の慌ただしさの中でも前奏は大切にしたい。その時間を惜しむのは、文化的に退化しているのか、進歩しているのか』と私たちに問いかけています。

科学は発展し、技術は進歩し、暮らしはすさまじいスピードで便利で効率的なものになってきましたが、幸福度といった面からはどうでしょうか。

私たちは、このあたりで時間を止め、日々の暮らしは充実しているのか、真の幸福とは何か、子どもたちのために、思いをめぐらしたいものです。

令和5年度  
定期総会報告



日時 令和5年7月1日(土)  
会場 はれの季 小杉苑(藤枝)

進行 志太支部

大池 俊彦 副支部長

一 開会のことば

志太支部 成岡 富雄 理事



本日は「はれの季 小杉苑」へお越しいただきありがとうございます。この会場では

十二年前にも総会が行われ、その時に退職者の終身会員制が決定しました。静岡大学教育学部のさらなる発展のために、同窓会はどう進むべきか、ともに考えていきましょう。それでは定期総会を開会します。

二 会長挨拶

山田 幸男 会長



本日は県内外からお集まりいただき、ありがとうございます。この総会が正規の形で開

かれるのは四年ぶりです。同窓会の活動の三本柱は、①職員や退職者の親和、融和、親睦を図る②地域の教

育活動のサポート③教育学部の支援です。この三年間は、同窓会の活動が思うようにできず忸怩たる思いを抱えてまいりましたが、今日を境に少しずつ活動の再開を図っていきたいと思っています。目の前の課題を一つ一つ解決しながら同窓会を前に進めていきましょう。

三 祝辞

教育学部長 熊倉 啓之 様



同窓会の皆様には日頃より静岡大学教育学部に対して心強いご支援をいただきありがとうございます。

うございます。全国的に教員不足が問題視される中、教育学部では、教員就職率を上げるために①高校生に教職の魅力伝える②入学試験において教職に就きたいという意欲を重視する③教職キャリア形成プログラムを充実させるなどの取組を行っています。今後も同窓会の皆様からのアドバイス、ご支援をよろしくお願ひします。

焼津市教育長 羽田 明夫 様



本日は静岡大学同窓会定期総会にお招きいただきありがとうございます。田圃の稲の緑

が日に日に濃くなるように、子どもたちは一日一日確実に成長していて、それを教職員が懸命に支えてい

ます。焼津市では、全本務教員の約三十五パーセントが静岡大学の卒業生、大学院の修了生です。静岡大学が本県の学校教育に大きな貢献をしてくださっていることは間違いないことであり、教育関係者の一人として心から感謝申し上げます。

静西教育事務所長 大根 富木 様

四 議事

- (1) 令和5年度同窓会役員
- (2) 令和4年度会務報告・決算報告
- (3) 令和5年度事業計画案・予算案
- (4) 会則の改正
- 五 報告事項(抜粋)
- (1) 令和4年度末退任役員について
- (2) 組織・財政基盤の安定化

六 全学同窓会について

七 次年度開催支部挨拶

富士支部 高橋 晃 支部長

八 閉会のことば

志太支部 四方 雅彦 理事



長時間に亘るご審議ありがとうございました。本日の総会を通して、同窓会の進むべき

方向性が改めて確認されたと思えます。世代や時代が変わっても教育や子どもへの思いは変わらないと感じています。ご参加くださった皆様に感謝を申し上げ、閉会させていただきます。

目次

巻頭言	会長 山田 幸男	2
定期総会報告		3
学部長挨拶	学部長 熊倉 啓之	4
事業報告・教員免許法改訂		5
支部だより	沼津芝 厚	6
	富士 渡邊 利治	6
	清水 荒川 民久	7
	関東 岡崎 里司	7
実践記録	伏見 倫也	8
附属学校・園だより	杉本 容康	9
静大今昔	田宮 縁	10
トピックス	小澤 一則	12
多彩な同窓生	白坂 雄太	14
	池田 博史	15
サークル・部活動	田中 真子	16
	大石紗矢香	16
	中野 結奈	17
	前田 琉	17
	田中 清吾	18
	高井 文代	18
	森 都子	19
特色ある活動	寺川 雄一	20
	田中 大輔	20
	白鳥 達也	20
	渡邊 瑞穂	20
	青葉 紀子	21
	松崎 勝	21
	鈴木 俊士	21
	塩谷奈生子	21
同窓会方針・事業計画		22
定期総会のお知らせ・編集後記		23
表紙作品(表・裏)	野中 裕子	24

## 教育学部の昨年度の取組と今後に向けて



静岡大学教育学部  
学部長  
熊倉 啓之

はじめに

昨年度に引き続き、教育学部長に就任しました。どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、今年度より静岡キャンパスに「グローバル共創科学部」が新設されました。それに伴い、教育学部の学生定員は、それまでの30名から260名に減員されましたが、これまでの専攻・専修は残し、また教員免許状も、幼稚園、小学校、中学校（10教科）、高等学校（10教科）、特別支援学校、養護教諭、保育士は、引き続き取得できるカリキュラム編成となっています。

このような状況下において、教育学部の令和4年度の主な取組と今後に向けた計画について、以下に述べます。

### 教員養成の高度化に向けた取組

#### (1) 教職キャリア形成プログラム

教育実習と大学の授業科目等を関連付けた大学4年間の体系的カリキュラムであり、令和元年度よりスタートして5年目となります。教育実習の前後に「教職キャリア入門」や「教職キャリア総論」を開設し、

授業観察の視点を学んだり、若手・中堅・熟年教員の方の話を聞く機会を設けたり、異学年での交流活動を行ったりして、教職への志向性を高め、資質能力の育成を目指します。昨年度は初めて、教育委員会の方から「教員の働き方改革」の話を聞く機会も設けました。今年度は、教職大学院現職院生へのインタビュー活動を導入する等、一層の充実を図っていく予定です。

#### (2) 「教育の現代的課題」科目群

平成29年度より実践している本プログラムは、ESD系、子ども育成支援系、学校生活支援系、学習環境のデザイン系、教育モラル育成支援系の五つの系を設け、教科や学校種の枠を超えて教育の諸課題の解決力育成を目指したものです。昨年度は計8名に修了証明書を授与しました。今後も、教師としての「もう一つの強み」を持つ観点から、一層の充実を図っていく予定です。

#### (3) ICT活用指導力育成プログラム開発

教科学研究開発センターでは、2年間に亘ってICT活用指導力を育成するプログラムを検討し実践を試みました。教職支援室にデジタル教科書や電子黒板、Chromebook、ICTツールサービスを整備するとともに、昨年度はICT指導カリキュラムマップを作成し、ICTの活用の基礎を学ぶオンデマンド教材を開発しました。今後、開発した教材を活用して実践の高度化を図っていきます。

### 教員研修の高度化に向けた取組

昨年度も、県教育委員会と連携した指導主事・管理職対象の「静岡の教育リーダー連携フォーラム（気概塾の後継）」、県総合教育センターと連携した「マネジメント研修」「学習科学の考えを生かした学びの計画・実践」を始めとして、浜松市教育委員会と連携した「六年目研修」、富士市と連携した公立小中学校の内研修会、その他各市町教育委員会や静岡県教育研究会等が主催する各種研修会において、教員研修に関わる活動に取り組みました。

今年度は、教科学研究開発センターが中心となって、教員研修の動画コンテンツを開発する計画です。

### 教職志望率の向上に向けた取組

教職志望の高い受験生の獲得に向けて、昨年度は教員養成特別枠の募集定員を増やしたり、学校推薦型選抜入試における高校推薦人数の上限を緩和したりする等の入試改革を行いました。

また、一昨年度開催できなかった高校生対象の「教職セミナー」を、昨年度は沼津市と浜松市で開催するとともに、七月末の夏季OCでは静岡県・静岡市・浜松市各教育委員会と連携して、オール静岡体制で「若手教員が語る教職の魅力」イベントを開催しました。

さらに、学生アンケート結果で進路に影響を与えたものに「親・親戚」があったことを受けて、保護者対象

の「教職セミナー」も開催しました。今年度も引き続きこれらの企画を開催し、教員就職率向上を目指します。

### 教育研究・地域貢献に関わる取組

教育研究の高度化や地域貢献に関わる様々な取組も推進しました。

一昨年度に引き続き「ESD実践の基盤となる公立学校の組織・カリキュラムのモデル開発」をテーマに川根本町等と連携したシンポジウム、そして「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」をテーマに日本平動物園等と連携したラウンドテーブル、医療・福祉等と学校教育の新たな在り方を模索した多職種・他機関連携フォーラム等を開催したり、理数の卓越した児童生徒を対象とする「静岡STEAMアカデミー」を推進したりしました。

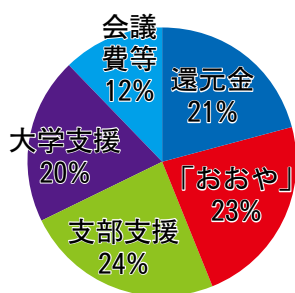
他にも、県立榛原高等学校や富士特別支援学校、静岡聖光学院中・高等学校等の県内学校を始め、静岡県くらし・環境部県民生活局や静岡市保健福祉長寿局等の行政、ひまわり事業団等のNPO法人、LINEみらい財団やKENTEN等企業の企業など、様々な機関と連携した取組を推進しました。

今後とも様々な教育研究活動に取り組み、地域貢献活動を推進する予定です。以上の取組の実現に向けて、今後とも同窓会の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 同窓会の主な事業について

- ◇定期総会 年に一回、開催します。
- ◇総務会 本部役員が、協議します。
- ◇理事会 支部選出の理事が出席し、事業内容などを審議します。
- ◇支部長事務局長会 支部長・事務局長が出席し、事業内容などを確認します。
- ◇各委員会
  - ① 役員候補者推薦委員会 本部役員を選考をすすめます。
  - ② 組織財政検討委員会 組織の活性化や財政運用の適正化を検討します。
  - ③ 同窓会誌「おおよ」編集委員会 「おおよ」の編集発行をします。
- ◇大学への支援
  - ① 教員採用試験の事前面接指導 一次試験前の6月に2回実施 二次試験前の8月に2回実施
  - 同窓会員（教職OB）20名が講師となり、指導をしています。同窓会費を「次代を担う教員の支援」に、有効に活用します。
  - 教育学部には「教職支援室」があり、同窓会員が中心になって、年間を通して教職を目指す学生を支援しています。
  - 一次試験前には「個人面接」を中心に実施し、会場への出入から練習します。（毎年、120名程度に参加）
  - 二次試験前には、個人面接だけ

### 年会費の運用



その他：OB会費・学生終身会費・備蓄金等から79%を運用

- ◇各支部への支援
  - ① 支部活動への補助金
    - ・役員会や講演会等への補助金
    - ・会員数分の還元金（一人210円）
  - ② 支部訪問などによる話し合い等
- ◇会費の運用
  - （1000円の年会費は同窓会運営の約21%を担っています）



でなく、集団面接や授業面接も実施しています。その成果として面接指導や教職支援室で助言をうけた学生が多く合格しています。

でなく、集団面接や授業面接も実施しています。その成果として面接指導や教職支援室で助言をうけた学生が多く合格しています。



私の持っている免許状は、どんな手続が必要かしら？

令和4年7月1日施行の教育職員免許法により、教員免許更新制が廃止されました。教員免許状（以下、「免許状」という。）に係る今後の手続について、以下をご参照ください。

免許状の状態	対象者	手続の有無
有効	・令和4年7月1日時点で有効な免許状を所有している方	無 (所有する全ての免許状が生涯有効)
期限切れ	・平成21年3月31日までに免許状を取得 ・更新手続せず有効期限を過ぎている ・有効期限の日に、教員として勤務していない	全てを満たす方
	・平成21年4月1日以降に初めて免許状を取得 ・有効期限が記載された免許状を有している ・全ての免許状の有効期限が過ぎている	全てを満たす方
その他	・何らかの理由により、免許状を返納した方 ・教員として勤務し、有効期限の日と同日付で、任用期間満了により退職した方	免許状の再取得申請が必要です。詳しくは、 <a href="#">こちら</a>

※免許更新制対象外（昭和30年4月1日以前に生まれ、平成21年3月31日までに免許状を取得）の方は、免許状が生涯有効のため、手続はありません。

【問合せ先】

静岡県教育委員会義務教育課 教員免許担当  
☎054-221-2758  
✉menkyo@pref.shizuoka.lg.jp



### 所有する教員免許状の手続について

静岡県教育委員会より情報提供をいただきました。

◇同窓会からの情報  
同窓会事務局にお問合せのあった「教員免許状更新制」についてお知らせします。有効な免許状で学校への支援をお願いします。

## 沼津支部

## 一体感



沼津支部 前支部長  
芝 厚  
(昭和54年・中数卒)

この三月に、沼津支部長としての役を終えました。その間、同窓会としての「一体感」を高めるよい方法はないものかと思ひ、ささやかな試みですが、「沼津支部だより」の記事内容を変更しました。

具体的には、「新任者の声」として、沼津市内の小中学校に赴任した新会員に原稿依頼し、それを「沼津支部だより」の中核に位置付けました。その結果、予想以上に会員の皆様からの好評を得ることができました。その後は紙面をカラー化し、新任者の顔写真も入れるなどの工夫を加味しながら継続しています。

例えば「…毎日失敗だらけの日々です。落ち込むことが多い中だからこそ、学生時代に教わった『教師が笑顔で教室にいることが何よりも大切』ということを身に染みて感じているところです。…」という新任者の声がありました。それを読んだ先輩たちは、「そうそう、私も同じだった。その静大時代の教えの通り、笑

顔を失わずに前を向いて取り組んでいけば、きっと光が見えてくるよ。頑張れ！」と誰もが応援したくなりませう。このように、新任者の声を通して共感したり、昔の自分を振り返ったりすることによって、同窓会員としての「一体感」が高まるのではないのでしょうか。

さらに、この「一体感」を高めるための工夫を加えるとしたら、「新任者の声」を読んだ先輩方の感想を、本人に伝えることが考えられます。その感想を支部で集約し、新任者本人に伝えることができれば、さらに有効だと思ひます。

また、新型コロナウイルスで開催できなかった「沼津支部研修会・親睦会」において、皆で新任者を励ます場を設けることも考えられます。同窓会としての「一体感」を高めるためのさらなる工夫を、後任の皆様にお願ひしたいと思ひます。



令和5年度沼津支部役員

## 富士支部

## 喜んでおこないますよ



富士支部 前支部長  
渡邊 利治  
(昭和62年・小英卒)

富士支部では、令和3年度、4年度と静岡大学の先生の講演をオンライン配信で、平日（授業日）の15時からライブでお届けしました。令和3年度は塩田真吾先生から「これからの情報モラル教育ーネット・トランスの予防を視野に入れてー」、令和4年度は河崎美保先生から「主体的・対話的で深い学びの授業デザイン」の演題でした。現場の先生方に少しでもお役に立ちたいという願いから、講演の内容を決め、提供しました。どの講演も、25人〜300人の先生方が視聴しました。

ところで、令和3年度の塩田先生の講演は、令和2年度の支部の事業として実施する予定が、「会場型」実施の計画のため、コロナ禍の中、中止となりました。同時に例年行っていた「会場型」の「若手交流会」も同様の理由で中止しました。コロナ禍の今、準備をしても実施できない場合がある企画は、避けるべきです。せっかくの準備が無駄になるか

らです。そこで、令和3年度は確実に実施できるオンラインでの講演会を企画しました。もちろん、「会場型」でない効果は十分ではない「若手交流会」は計画の段階で「未実施」としました。また、「会場型」で実施した場合には、会場となる富士教育会館ではせいぜい50人程度しか視聴できません。ところが、オンライン配信であったために、その数倍の先生方に視聴していただくことができましたのは大きな収穫でした。さて、若い頃、学校で「支部だより」を配りながら会費の100円をいただくことになると、「この会誌が100円ですか。それならいらぬけれど…」などと皮肉を返され、幾度も嫌な思いをしました。この思いは支部長となった今、活動づくりのモチベーションとなつていきます。「静大同窓会の企画の講演会がとても授業づくりに役立ったな。だから、100円くらい喜んで出しますよ。」とまで言っていたら、それと最高ですが、現場を支援する同窓会であらねばなりません。現場の先生方が生き生きと充実した仕事をすることが、教員志望者を増やし、静大教育学部出身の先生方が増えることになり、それが、同窓会組織の持続可能化につながるのですから。

## 清水支部

### これまでのつながりと これからのつながり



清水支部 前支部長  
静岡市立久能小学校校長  
荒川 民久  
(昭和60年・小社卒)

清水支部は、静岡市清水区の現職287名、退職343名、計630名(令和四年度)の会員で構成されています。主な活動としては、役員会を年二回開催し、現職・退職の会員が顔を合わせて、情報交換や支部運営についての協議を行っています。ここしばらくはコロナ禍の影響で中止を余儀なくされましたが、多くの会員が参加し交流できる場として、各方面で活躍されている方を講師に迎え、「教育講演会」を実施してきています。

近年の大きな動きとしては、令和四年度から、旧清水支部と旧庵原支部が統合され、新しい清水支部がスタートしました。この統合にあたっては、多くの皆様からご理解・ご協力をいただき、感謝しています。

旧両支部のよさを生かして、清庵地域の教育に貢献していくという同窓会としての考え方は、現在の教職員との人事交流に照らしても自然なことです。今後の活動の充実のためにも、新しい支部として力を合わせて

いきたいと思っています。

さて、力を合わせると言えば、静岡市立の全ての小・中学校では、静岡型小中一貫教育が実施され、各地区のグループ校ごとに特色ある意欲的な教育が進められています。

静岡型小中一貫教育とは、「九年間を通じた系統的な学びを目指す」取組ですが、その中で地域の方々と共に進めていくということが、重要なポイントです。つまり、グループ内の小・中学校が手を取り合うだけでなく、「学校・家庭・地域みんな子どもたちを育てていく」という、さらに大きな取組であるという捉え方が必要です。既にいくつかの地区では、グループ校に学校運営協議会を設置して、小中一貫コミュニティ・スクールとしての体制をスタートさせています。

こうした取組は、子どもたちの育成に関して多くの人たちの当事者意識を高め、それがやがてはその地域ならではの「子育てや人づくりの風土」の醸成へとつながっていくことが期待できます。その中で行われる教育によってこそ、子どもたちにとっての本当の豊かな学びが実現するのではないかと感じています。

その意味からも、同窓会の会員が退職・現職の区別なく、交流し語り合える機会をこれからも大切にしていきたいと考えています。

## 関東支部

### 関東支部の取り組み



関東支部 事務局長  
岡崎 里司  
(昭和55年・小理卒)

関東支部には、現職会員と退職会員合わせて80余名が登録されており、同窓会本部と連携しながら活動しています。毎年7月第一土曜日に定期総会・懇親会を開催しています。しかし、コロナ禍のため、令和2年から、開催できないでいます。参加者の構成は、教員、教育関係者、画家、企業に従事されている方など多彩なメンバーとなっています。話題も多岐にわたり、現在の教育問題に始まり、学生時代の懐かしい思い出、現在の社会情勢など様々です。また、他学部との交流に役員が参加し、絆を深める活動もしています。



交流会を大いに盛り上げてくれた  
『大江戸玉すだれ』

関東地区では、学部を越えて卒業生相互が交流する機会をつくろうと全学部の同窓会関東・首都圏五支部が連携して平成25年から全学同窓会に取り組んできました。第四回を迎えた東京交流会も五支部(岳稜会東京支部、浜松工業会東京支部、理学部同窓会東京支部、農学部同窓会東京支部、教育学部同窓会関東支部)から実行委員が集まり、実行委員会を8回開催して準備を進めてきました。実行委員会事務局を教育学部同窓会の渡邊恒雄関東支部長が務めて開催しました。全学同窓会第四回東京交流会は、5月27日(土)アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催されました。記念講演として「賤機山物語―静岡の地形・地質、歴史と災害―」と題して静岡大学防災総合センター客員教授藤岡換太郎氏が行いました。アトラクションとして記念公演「大江戸玉すだれ」が上演され、大いに盛り上がりました。



関東支部総会  
(本部役員も参加)

# UD化で誰一人取り残さない 宮竹小学校の教育の推進



静岡市立  
宮竹小学校校長  
伏見 倫也  
(昭和62年・小心理教育卒)

## 宮竹の子どもたち

宮竹小学校の子どもたちは、どの子も元氣よく挨拶し、よく遊び、子どもらしいエネルギーに溢れています。興味関心があることには集中して一生懸命取り組む、でも、自分で考えて行動したり、思いや考えを積極的に発信したりすることが苦手な子が多いように思います。また、学習内容の習得が苦手な子、学びの意欲をもちにくい子も多く、懇ろな個別支援を要する児童も若干見受けられる傾向にあります。

一方、校内には、歴史ある通級指導教室と、数年前より設置された特別支援学級が四学級（知的二学級、自閉症・情緒二学級）があります。これらのことを踏まえ、宮竹小学校の教育に必要なことを次のように考えました。

## UDな教育を目指して

○生徒指導の三部体制（生活指導、授業改善、特別活動）を核とした宮竹小学校の教育を、常に見直しながら、コロナ禍、何が大切で、何に取り組まなければならないかを明確に

して具体的に取り組みました。授業では特別支援教育の視点で授業改善、教育活動の見直しを進めました。○あらゆる教育活動のUD（ユニバーサルデザイン）化を進めました。「物的環境」「人的環境」「地域や保護者へのUD」を進めました。キーワードは「誰にでもわかる」ことです。

○「特別支援の4STEP」による個別最適な校内支援体制を進めました。指導に活かすことのできる特別な支援の手だてを研究しました。○すべての子どもを受け入れるインクルーシブな自然体の教育を進めるために、特別支援教育の理解を深める書籍を購入し、研修に活用しました。個別指導のための教材教具、学習プリント購入整備を進めました。

これらを大切にするので、子どもたちを誰一人取り残すことのない教育の実現を目指していきたいと考えました。教育活動も精選し、適宜リンクさせ効率よく進めています。

**具体的な取り組みとして：**  
○年間を通して、特別支援教育やUDに関する研修、就労支援事業所の皆様による講演等を計画的に実施し、特別支援の視点が必要な本校職員の見識を深めています。

○学習環境の整備、教室掲示の工夫、ICT環境整



備、校内環境やUD教室表示制作と設置、安心安全な環境整備に資する資材の購入等を積極的に行い、教育環境の整備を進めています。○学校のUD化を進めるためのオリジナルキャラクターの制作に取り組み、公募投票を経て決定したキャラクターを活用しています。○保護者や地域向けの文書はより見やすくUDを意識したものを発行するように心がけています。



○夏季研修会において通級指導教室担当やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等から児童のあらゆる指導方法についての話を伺い特別な支援を必要とする子どもたちの対応について広く学びました。

○支援の4STEPを活用した事例検討や情報交換を綿密に行い、校内体制による有効な支援について検討することができました。

○研修用に「教室マルチリトメント」「通常学級のユニバーサルデザイン」「子どもの発達障害」等の書籍を購入し、研修に役立てました。

## これからもUDな教育を：

これまでUD化の視点を積極的に取り入れ、「視覚化・焦点化・共有化」を意識した教育活動を大切にしてきました。支援を必要とする子のみならず多くの子へ支援の手が行き届く

ようになってきたと感じます。また、校内外への情報の発信を受信する側に、わかりやすいものにすることや、コロナ禍の沈滞気味のムードの中、キャラクターを作成し、UD環境を整えることで、地域と学校の活性化に少なからず貢献することができてきたように思います。子どもたちが落ち着いて教育活動に取り組む姿も随所に見られています。教職員、保護者、地域住民の意識をこれまで以上に一層高め、「教育のUD化」を一過性のものに終わらせることなく、その取り組みが引き続き継続されるようにしていくこと、それこそが本当の「UD」だと考えます。

### 教育研究のサポーター 出文

サポーター  
～本県の先生がたのよき支援者として～

教育支援事業として  
2つの事業

**教育文化事業**  
子ども学習電話相談室、ICT活用講座 等

**図書教材研究事業**  
「各種図書教材」の研究

**(一社) 静岡県出版文化会**  
〒422-8006 静岡市駿河区5丁目5番地38号  
TEL:054-270-5800 FAX:054-270-5701 URL:http://syutubun.com



# 「生徒のいる地域教育実践センター」を目指して



静岡大学教育学部  
附属島田中学校校長  
杉本 容康  
(昭57年・小国卒)

本校は、一昨年度に創立75周年を迎え、昨年十月には記念式典を開催しました。昭和38年より「主体性を高める授業過程」をテーマに、積み重ねてきた研究の成果は、授業における主体性に留まらずに、生徒会活動やゆかり祭、日常生活等における「主体性ある」生徒の姿として脈脈と引き継がれています。

平成16年度の大学法人化に伴い、教科研究へとシフトし、「地域との連携を強めた教育研究の推進」「年間を通して、教科の指導力を高める機会がいくつもある地域の教員研修校」としての機能を持つ「生徒のいる地域教育実践センター」を目指しています。

令和3年度からは、働き方改革も加味し、2年サイクルでの研究にとりかかりました。「教科研究会」と「授業づくりセミナー」「教科を学ぶ会」等を隔年実施で進めています。コロナ禍の中、この2年間は、参加を制限しての研究となっていました。が、本年度については、通常の形で

教科研究会等を開催していきます。詳細については、附属島田中研究部「LINE公式アカウントより閲覧をお願いいたします。」



追加の友達をLINEでお願いします。

また、静岡大学教育学部は、島田市と藤枝市との間で「教育に関する協定」を締結しました。本校は、連携の中核を担い、教育学部と地域を結び付ける役割も果たしています。

## 夢追プロジェクト

浜松地区を中心に進めている「トップガン教育システム」を、本校でも平成30年より取り入れ「夢追プロジェクト」という名称で、理科・数学・技術への興味・関心を高めています。希望する生徒が、水曜日の放課後に、「理科プレゼンテーション」指導を受けて、「理科プレゼンテーションコンテスト」「科学の甲子園ジュニア」「創造アイデアロボットコンテスト」等に挑戦しています。昨年度は、「科学の甲子園ジュニア」において、県大会を1位で通過し、静岡県代表チームとして、三度目の全国大会出場。「ロボコン」において、

チーム「ちくわ」が、東海北陸大会優勝、全国大会7位入賞（予選トップ通過による審査員特別賞の受賞）という成績を収めることができました。「夢追プロジェクト」をきっかけに高校生になってからも大きく羽ばたいている生徒が多数います。



『ロボコン東海北陸大会  
令和4年優勝「チームちくわ」』

## 沖縄修学旅行

平成12年度より、修学旅行先を沖縄にし、二十年以上が経過しました。唯一の地上戦となった沖縄の戦跡を回り、基地について知り、平和の尊さを学ぶことが目的の一つです。本校生徒が、平和集会で歌う『別れの曲（うた）』は、十年前に、ひめゆり平和祈念財団が作成したDVD『アニメひめゆり』に収めていただいています。

附属学校園名	研究主題他	副主題・視点他	開催日	
附属静岡小学校	令和5年度 研究協議会	その子らしく学ぶ	研究の可能性を広く深く探り、研究の価値を子どもの姿を根拠に明らかにしていく。	令和5年10月13日 (金)
附属静岡中学校	令和5年度 教育研究協議会	学びの自覚	子どもが見いだす教科の本質	令和5年11月2日 (木)
附属浜松小中学校	令和5年度 教育研究発表会	よりよい未来を創造する子どもの育成	めざす子ども像に必要な資質・能力を育成するための小中一貫カリキュラムの開発 (仮題)	令和5年10月19日 (木) 10月20日 (金)
附属島田中学校	令和5年度 教科研究会	教科研究を深め、地域の先生方の教科指導力を高めることのできる学校 「生徒のいる地域教育実践センター」を目指して (教科研究会の開催及び授業づくりセミナー等の実施)	教科ごとに実施	
附属幼稚園	令和5年度 公開園内研修会	あそびについて語り合おう (2年次) ～「協働型」園内研修の保育カンファレンス～ ※参加人数に限りがございますので、早めにお問い合わせください		令和5年5月31日 (水) 令和5年10月30日 (月) 令和5年12月1日 (金)
附属特別支援学校	第48回 研究協議会 研究フォーラム 2023	自分事として学び豊かな生活を 実現する	資質・能力の育成を目指し、学習者目線に立ち、子どもの内から出てくる「大事だよ」「やりたいよね」というテーマにトライすることで、子どもが自分事として学ぶ授業づくりを追求する。	研究協議会 令和5年11月10日 (金) 研究フォーラム 令和5年11月11日 (土)

# 今昔 静大

## 静岡大學附属図書館

### 探検に出発!



「大学の心臓」とも言われる図書館。四月より教育学部総務係に異動された大泉係長と探検に出かけました。今回は、懐かしい場、進化した空間、そして多くの人が知らない秘密をご紹介します。

企画：田宮 緑 デザイン：川原崎 知洋



過去1年分の学生用雑誌を開架。座り心地のよいソファで雑誌を読むことができます。

雑誌閲覧室



4階のゲートからIDカードをかざして入館。



開架図書

理学部を望む窓から見える新緑が美しい!

静岡キャンパス附属図書館の蔵書数は、896,022冊です。(2022年6月22日時点)



個人用ブース

1人で勉強したい学生のために、6部屋用意されています。



閲覧室

学生たちは静かに勉強していました。

昔から変わらない図書館の閲覧席。



ハーベSTRーム

この日も学生たちが、机や椅子を用途に合わせて自由に動かして活用していました。

グループ討議など会話ができる部屋です。

3階は製本新聞、洋雑誌、2階は和書、洋書、漢書、遺跡等発掘資料。  
1階の周密書架には和書、洋書、旧制静高蔵書が置かれています。

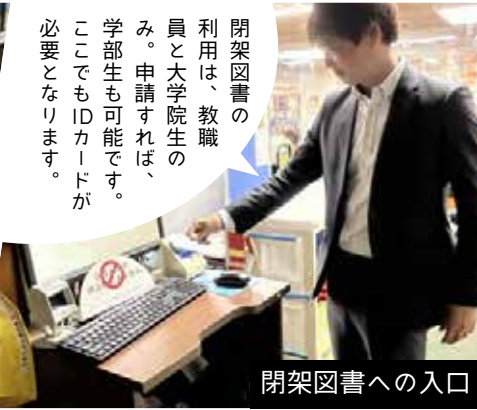


## 閉架図書

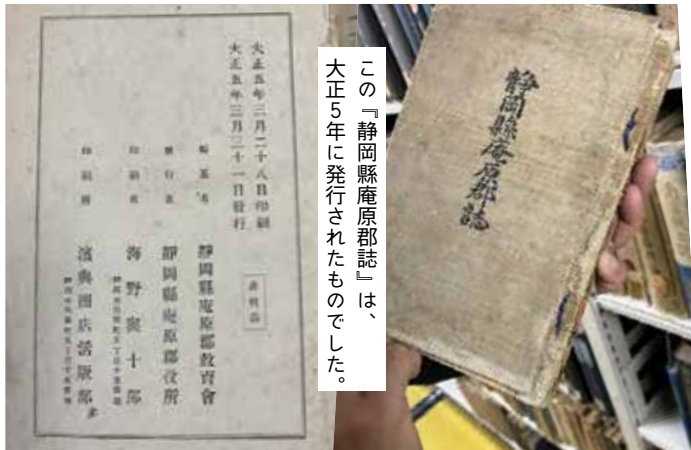


閉架図書へはエレベーターで向かいます。

閉架図書の利用は、教職員と大学院生のみ。申請すれば、学部生も可能です。ここでもIDカードが必要となります。



## 閉架図書への入口



この「静岡縣庵原郡誌」は、大正5年に発行されたものでした。



歴史を感じる本を慎重に取り出してみました。

1949年に発行された日本考古学協会編『登呂』



深い本の海を楽しんでみるのもいいですね。



最後に、「ここは旧館2階です！」と床に張り紙がされています。本の海で迷ってしまい、エレベーターにまでたどり着けない人もいます。



周密書架には貴重な蔵書がぎっしりと収められていました。



教育学部総務係長  
**大泉 秀樹**

20年ぶりに教育学部へ通うことになりました。  
母校で働くことにやりがいを感じ、先生たちの教育研究活動を支えることが仕事です。  
今回紹介した静大図書館は、学生時代にレポートの作成やテスト期間よく利用した思い出があります。この日も多くの学生が利用し、今も昔も変わらないですね。  
学生時代はサッカー部に所属。恩師は村山功先生です。

- 2001年3月 静岡大学 教育学部 総合教育課程 情報教育コース 情報言語 卒業
- 2003年3月 静岡大学大学院 教育学研究科 技術教育専攻 情報教育専修 修了
- 2004年9月 静岡大学事務局 採用
- 2023年4月 静岡大学教育学部総務係長に着任

# 幼小中一貫教育による「夢を追い続ける子どもの育成」

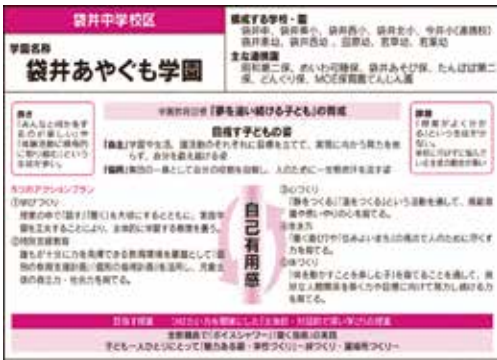


前 袋井あやぐも学園  
袋井市立袋井中学校校長  
小澤 一則  
(昭和61年・小英卒)

## 一 本学園の概要

袋井市では令和2年度から幼小中一貫教育を全面実施し、自立力と社会力を兼ね備えた15歳を育てることを目指しています。「袋井あやぐも学園」は、袋井東小、袋井西小、袋井北小、今井小（連携校）、袋井中学校と五つの公立幼稚園・こども園及び私立連携園で構成され、幸運の前兆である彩雲（あやぐも）のように、子どもたちの未来が輝くことを願っています。

学園の教育目標は「夢を追い続け



令和2年度「袋井あやぐも学園」の概要

る子ども」の育成とし、幼小中一貫カリキュラム及び六つのアクションプラン（授業づくり部、学びづくり部、体づくり部、心づくり部、生き方部、特別支援部）をもとに、全教職員が6つの部のいずれかに所属し主体性と自己有用感を高めることで教育目標の実現を目指しています。



令和3年度グランドデザイン(一部)

## 二 幼小中一貫カリキュラム

本学園では、目の前の子どもの実態や、これまで学園として大切にしてきたことを踏まえ、作業部会を開催し、各部の内容を議論したり、学園の一斉研修会において全職員がそれぞれの部会に分かれて検討を重ねたりして、生きて働く幼小中一貫カリキュラムを作成しました。そのため、このカリキュラムは、毎年度内容を吟味し、それぞれの評価指標も作成して検証することで、幼小中の職員が手を取り合っつながるツールにもなっています。

## 三 学園を支える絆づくりと居場所づくり

数年前までの袋井あやぐも学園の子どもは、学習に向かう意欲が乏しく問題行動を起こすことが多くみられました。その要因として、子どもの中には家庭環境に恵まれなかったり、家庭内で認められることが少なかったりしたこと、自己肯定感・自己有用感が育まれず、継続的な努力や学びから逃避したり、抵抗したりする傾向が強かったことが挙げられます。

そこで、平成28年度に袋井市が「魅力ある学校づくり」に着手したことをきっかけに、本学園では、幼・小・中が連携して自己有用感を高めるための「居場所づくり」と「絆づくり」を進めるとともに、「ボイスシャワー」と「聞く指導」を根幹に据えて取り組んでいます。

また、幼小中一貫の利点を生かした取組やしなかけを重視しています。それは新たな方法であったり大きな労力を必要としたりする方法ではなく、すべての教職員が、すべての子どもに対して、どのようなときでも実践できるよう「一人の100歩より100人の1歩」を合言葉にして先に述べた幼小中一貫教育カリキュラムをもとに実践しています。

## 四 幼小中が連携して取り組む「ボイスシャワー」と「聞く指導」

本学園では、子どもへの勇気づけの「ボイスシャワー」と、規律づくりのための「聞く指導」の徹底を共通の方法としました。



これらは、静岡大学教育学部の卒業生である鳴門教育大学教職大学院の久我直人教授の理論と示唆によるものです。かつて問題行動が多かった実態から、あれもこれもではなく小さいエネルギーで最大の効果をねらい、指導はできるだけシンプルにしていくというものです。

「聞く指導」は規範意識を高めるための方法です。人の話をしっかりと聞かせる指導は、規律をつくることにも、思いやりの気持ちを高め、学習への態度にもつながるものです。「ボイスシャワー」は子どもたちのプラスの表れを認める方法です。子どもの負の面を見るのではなく、子どものよさを「教師が宝探しの目」で

見取ることです。結果でなく過程や方法を他人でなく過去のその子自身と比べて、たっぷり褒めることにより、子どもの自己有用感が高まるだけでなく、教師と子どもの関係や、子どもと子どものよい関係も構築されていきます。

## 五 幼小中一貫教育を支える体制

本学園では、校長・園長等による運営委員会をはじめ、各校の主幹教諭・教務主任や幼小中一貫コーディネーターらによる推進委員会や、各保幼小園の代表らも加えての拡大推進委員会等を一貫教育推進の中核と位置づけています。



幼小中一貫研修会（全体会）

また、学園カリキュラム検討委員会も開催し、幼小中一貫カリキュラムを使って目指す子どもの姿を共有し実践を重ねることで、各園・校の安定を創り出し、「つながる」をキーワードに子どもの健やかな成長を目指しています。

さらに、年三回の幼小中すべての

職員が一堂に会した一斉研修会では、授業参観や基調講演を聞いたり、分散会では、年間を通して各部で同じメンバーで話し合ったりすることで、共通理解を図っています。



幼小中一貫研修会（分散会）

## 六 幼小中一貫教育の成果と課題

袋井市では、平成28年度から「幼小中一貫教育」評価に関する意識調査を実施しています。令和4年12月の結果の中で、本学園の小中学校の子ども「学校が楽しい」のもっとも上位評価の「そう思う」は68%、「ややそう思う」の26%と合わせると94%となり、「みんなで何かをするのは楽しい」については、それぞれ76%と19%で95%となるなど、子どもたちの学校生活が充実していることがうかがわれます。また「自分にはよいところがある」については、それぞれ51%と34%で85%となり、「学校に信頼できる先生がいる」についても、それぞれ63%と27%で

90%となっています。このことから子どもたちの自己有用感の高まりや、子どもと教師との信頼関係の高まりが見られ、それらが「学校が楽しい」にもつながっていると捉えています。

また、袋井中学校における問題行動発生件数は、平成28年度から大幅に減少し、学びに向かう姿勢が育ってきています。不登校出現率については、平成28年度以降は約6%と高い数値で推移していましたが、令和3年度は3.6%と減少しました。しかし、令和4年度はまた増加に転じるなど引き続き対応が求められています。そのため本学園では、一貫教育の利点を生かし、保幼小園の連絡会や小中合同のケース会議を開くなど横と縦の生徒理解を深め、学校によっては不登校担当を位置づけ、不登校生徒が学ぶ教室を設置するなど対応をしています。

教職員意識調査においては、「同じ中学校区の教職員が、15歳の姿を意欲し、連携を図って指導を行っている」についても95%と肯定的にとらえています。

今後も幼小中一貫の仕組みを生かして、子どもたちが夢を持ち続けることができるよう教職員全員が共通理解のもと取り組んでいきます。

会報 冊子 チラシ 等々

デザイン・校正から納品・発送まで

ネット印刷にはないきめ細かなサービスを御提供致します！

YACHIYO PRINTING INC. 八千代印刷株式会社

TEL.054-283-0111 FAX.054-281-9421 URL:http://www.yachiyo-p.com

児童・生徒、教職員、保護者を支援！

**教育振興事業**

- 奨学事業 無利息貸与・給付
- 教育研究助成事業 教育研究・実践活動支援等
- 教育文化事業 PTA・地域教育振興事業等へ助成

**福祉事業** 祝金贈呈・宿泊補助・教弘友の会等

**共済事業** 教弘保険（提携保険事業）

公益財団法人 **日本教育公務員弘済会静岡支部**

静岡市葵区駿府町1-12 静岡県教育会館4F 054-205-5130

ドイツとドイツで



さいたま市立岸中学校教諭  
デュッセルドルフ  
日本人学校派遣  
白坂 雄太  
(令和2年〜5年)  
(平成26年・中英卒)

さいたま市立の教員として勤務する中で、在外教育施設でのチャンスをおいただき、ドイツのデュッセルドルフ日本人学校で勤務をすることになりました。初年度は、着任がコロナの影響で遅れ、八月になるという異例の事態に悩まされながらも、多くの方の支えにより充実した三年間を過ごすことができました。

一年目は、ドイツの各州の方針により、学校運営が定められ、多くの学びをオンライン授業で行うことになりました。そのような中でも規制の緩和に伴い校外学習に行くことができましたのは担任した小学部6年生にとっても素晴らしい思い出になりました。その年は卒業式もオンラインになり、前例のないものをつくりあげなければならぬ中でしたが、周囲の支えがあり卒業式をオンラインで行うことができました。

二年目には、ドイツでも規制が少しずつ緩和され、ドイツならではの行事も行うことができるようになりました。



オンライン卒業式の様子

二年続けての小学部6年生の担任を務めさせていただき、修学旅行では世界遺産である公園施設であるヴィルヘルムスヘーエに行くことができ、私にとっても素晴らしい経験となりました。



ヴィルヘルムスヘーエにて

三年目は、サッカーワールドカップが開かれる年であったため、日本人としてのアイデンティティを強く感じる機会が多くありました。日本代表のワールドカップ直前の国際親善試合の運営を、日本人学校としてお手伝いさせてもらうこともできました。本大会では、ドイツを破る快進撃で、子どもたちと一緒に大きな喜びを感じました。



日本代表の親善試合前のピッチで

ドイツという国で感じた生活や文化の中にある違和感が自分自身を大きく成長させてくれたと感じています。日本の良さ、ドイツの良さを上手く組み合わせ、日本でのより良い教育活動に繋げていけるようこれからも頑張っていきたいと思えます。



日本代表 田中選手(右)と

オフィス印刷機のご用命は、  
とうぶんどう  
**膳文堂にお任せください!!**

株式会社 膳文堂  
 静岡市葵区本通4丁目1-4  
 Tel: 054-251-3111 Mail: century@tobundo.com

新しい文化施設静岡市歴史博物館へ  
「家康に会いにくる」



(公財)静岡市文化振興財団  
静岡市歴史博物館  
企画経営課 課長  
池田 博史  
(平成9年・中理卒)

卒業後入社した、公益財団法人静岡市文化振興財団は、静岡市内の文化施設や生涯学習センターを運営する法人で、私は本部の事業担当や、公民館(現在の生涯学習センター)、静岡科学館など主に事業の企画運営を担当してまいりました。

また、大学連携の担当として、静岡大学と当法人の事業連携に関する包括協定の締結を担当させていただきました。卒業後も大学生と現場との勉強会にも参加させていただきました。社会教育についての最新の情報や全国各地の状況などを情報交換させていただきました。

大学で学んだ教育についてのベイスは、事業を企画する中でつねに中心にあると考えています。これらの経験を経て、静岡市歴史博物館の企画経営課長として、運営に携わらせていただいております。静岡市歴史博物館は、博物館としての研究や教育普及に加えて、まちの賑わいや交流を促す「観光交流」としての機能をもった新しいスタイルの博物館です。これらのミッション達成のために、学芸課と企画経営

課の2課体制で運営をしておりま

す。私の担当する企画経営課では、施設の維持管理やお客様を迎えるための運営を担当する部門と、賑わいを創出する事業を企画運営し、市内への周遊を促進する広報・観光交流の部門を担当しております。



道と石垣の遺構

静岡市歴史博物館は令和5年1月13日に静岡市の中心部、駿府城公園となり、にグランドオープンしました。くしくも、松本

潤が演じる徳川家康を主人公とした大河ドラマのスタートと同時期になりましたが、偶然タイミングが合っただけでした。

静岡市において、歴史資料の展示と文化財の保存の役割を担っていたのは、昭和50(1975)年に静岡浅間神社の境内に設置された静岡市文化財資料館でしたが、静岡市の歴史や文化を総合的な視点により整理し説明するような役割を持つ施設が求められていました。その後、市民の歴史博物館建設に対する機運が高まり、基本構想、基本計画の策定と進められました。

建設場所として選ばれたのは、旧青葉小学校の跡地。この場所は、県立中央図書館の前身となる静岡県立葵文庫の跡地でもあります。さらにはさかのほれば、駿府城の三の丸とし

て城代屋敷のあった場所となりました。

設計も決まり、建設前の事前調査を行ったところ「戦国時代末期の道と石垣の遺構」が発見されました。時代的には、徳川家康が天正期の駿府城を築いた頃のもので、当時この場所は駿府城の外に位置することから、家康の家臣が住んでいた地域の道ではないかと考えられています。道の遺構自体全国でも珍しく、その保存をどうするか検討の結果、博物館内にて露出展示をすることになりました。そのため、出来上がった設計を変更するため、一年間完成が伸び、大河ドラマの放映開始と開館が一緒になったことは、幸運であったのかもしれない。



静岡市歴史博物館外観



設計は、金沢21世紀美術館や、ルーブル別館ルーブルランスなどを手がけた、妹島和世氏と西沢立衛氏による建築ユニットSANAA。

基本展示では、静岡発展のキーマン、徳川家康をストーリーの中心に展開し、駿府から世界を視野に活動した、その人生と人物像に迫ります。また、家康を育てた駿府の戦国大名・今川氏についても常設コーナー

で紹介し、家康以降の東海道の賑わい、清水港の発展、明治に再び駿府に移った徳川家の縁などを踏まえ、駿府から現在の静岡へいたる発展の歩みを紹介しています。

博物館の一階は無料エリアです。ここでは、毎週末、学芸員の生のトークや工作体験など、いつでも何かやっています。また、無料のガイドツアーや市内の歴史観光コンシエールジュを配置するなど、静岡市の歴史観光の拠点としての機能を目指しています。

静岡市にお越しの際にはぜひお寄りいただき、静岡の魅力を知っていただければと思います。

静岡県の子どもに『静岡県産』の教材

# 自習室Next

静岡県入試への備えもOK!

学びに合わせて選べる分冊型!!

ポイントガイド  
要点を確認し、重要ポイントを整理するテキスト

ステップアップ  
基礎・基本を確実に身につける問題集

ポイントガイド  
社会

ポイントガイド  
数学

ジャンプアップ  
基礎・基本・応用・発展的な問題で力をのばす問題集

(株)静岡教育出版社  
静岡市駿河区曲金5丁目5-38  
TEL:054-281-8870  
FAX:054-286-6590  
HP:https://www.shizedpu.co.jp

## 和気藹々



女子ソフトボール部

田中 真子

(令和5年・理科卒)

静大女子ソフトボール部は、部員の状況に応じて柔軟に練習メニューを考えたり、練習の中でそれぞれ意識する点を共有したりしながら活動しています。



試合の一場面  
(一人ひとりが欠けてはいけない存在)

私たちは、先代のソフトボール部のバトンを繋ぎ、経験者、初心者に限らず全員が「楽しむ」ということを大切にしてきました。メンバー一人ひとりの個性がとても豊かで、チームが一つにならないこともありましたが、仲間と日々試行錯誤をしながらチームを作ってきました。練習のない日もチームメイト同士仲が良く、私にとってとても心強い存在

でした。居心地のよさは、静大一大と思います。

ぜひ、私たちと一緒にソフトボールで青春しましょう！



試合前に円陣を組み、  
気持ちを一つにしている

静大女子ソフトボール部の魅力はなんととっても和気藹々とした雰囲気だと思えます。私は中高とソフトボール部に入っていたので、大学では何か新しいことに挑戦したいなと思っていました。でも、「女子ソフトボール部」特有の和気藹々した雰囲気、新しい仲間とともに春夏秋冬ソフトボールに熱中した日々は、今の私にとってかけがえのない宝物です。みんなでチームを作り上げてきた経験は、変化の大きな社会の中で、自分を見失うことなく自分を信じて進んでいくことができる重要な人生の羅針盤となっていると確信しています。

## 空手がどけるんじや



空手道部

大石 紗矢香

(人文社会科学部 法学科3年)

静岡大学空手道部は毎週3回、舞踏場にて活動しています。

昨年は新型コロナウイルスによる制限が緩和され、大会に出場する機会や、他大学の方々と交流する機会が少しずつ増えてきました。それでもまだ例年通りとはいかず、やるせない思いをしたのも事実です。部員一同、空手ができることのありがたさを改めて感じた一年でした。



「形」の練習

空手道部には師範がないので、普段の練習は自分たちでメニューを考えています。先輩後輩関係なく、互いに練習を見合ったり、どんなメニューにしたらいいかを相談し合ったりなど、切磋琢磨しながら稽古を積んでいます。また、練習に顔を出してくださいさるOBの方々にもご指導いただいています。練習に限らず、先輩方の支えのおかげで、私たち現役部員が恵まれた環境で日々稽古することができています。私たち

も引退・卒業後、後輩たちの力になるうと、決意しました。



舞踏場に部員が集合 (追いコン)

私たちは「空手を楽しむ」ことを一番の目標として、日々稽古に励んでいます。大会で結果を出すこと、空手を極めることももちろん大切で、それらを達成できるよう頑張ってもいます。しかしそれに固執するあまり、空手を楽しむことを忘れてしまったら、大学生活の思い出が嫌なものになってしまいかもしいない。あくまで空手が楽しい、空手が好きだという思いが根本にあったうえで、稽古に励むことが重要だと考えています。そのため、普段の稽古は、厳しすぎない、辛いけど楽しいメニューを中心に行っています。

空手ができること、切磋琢磨できる仲間がいること、支えてくださる方々がいることに感謝し、自分たちができることを精一杯頑張る、大学生活の思い出を彩りのあるものにしていきます。



『ふ』



かるた部  
中野 結奈  
(養護教育・3年)

この一文字、皆さんは何だと思えますか？たいして意味を持たないように感じるでしょうか。

実は競技かるたにおいて、この一文字は大きな意味をもちます。競技かるたには、そこまで聞けばどの短歌か特定できる決定音、「決まり字」というものがあり、『ふ』は「吹くからに」から始まる短歌の決まり字なのです。面白いことに決まり字さえ覚えれば、上の句・下の句を丸暗記しなくても、試合に勝つことは可能なのです。意外に感じましたか？

さて、私たちかるた部の紹介に移ります。かるた部は静岡、浜松キャンパスのそれぞれで活動しており、静岡キャンパスは学生会館や文化系サークル共用施設で週に三、四日ほど、浜松キャンパスは佐鳴会館で週に二、三日ほど活動しています。両キャンパスの合同練習や合宿、静岡の高校の練習会や県内外での練習・大会への参加など、様々な経験を通して、それぞれのかるたを磨いており、かるた歴に関わらず、多くの部員が大会において入賞・優勝などの

結果を残しています。

ここで再び、競技かるたについてのお話を。競技かるたとは「小倉百人一首」かるたの札を使うゲームで、対戦は一对一。それぞれが百枚のうち二十五枚ずつ選んで自分の前に並べ、読まれた上の句に対応する札を取る速さを競う競技です。札の配置や決まり字の暗記、音に瞬時に反応する神経や判断力、精神力、札を取る技術など、様々な力が必要です。そして、その時の運によっても勝敗が左右します。



静岡大学合同練習の様子

また、年齢や性別に関わらず打ち込める競技であるため、練習・大会などを通して多様な人と知り合えることや、基本的に選手同士でどちらが札を取ったかを決めるため、相手への敬意を持って接することが大切にされているのが魅力の一部です。

かるた部はこれからも、相手への敬意を大切にしながら切磋琢磨し、それぞれの理想のかるたを取ることができるよう励んでいきます。

アカペラを楽しもう



アカペラサークル  
前田 琉  
(理学部・2年)

静大アカペラサークルは「GARDEN」の名称で活動しています。楽器などを使わずに自分たちの声で音楽を奏でます。

部員は70名ほどで、いくつかのグループを作って活動することが多くなっています。

サークル員は全員がアカペラ初心者で、音楽経験のない人も多くいますが、自由に活動内容を決めて、気軽に楽しめるのが特徴です。そのため、新入生と先輩がごちゃ混ぜになってバンドを組む「ごちゃばん」も、このサークルならではの活動です。



まもなく開演

今年卒業した先輩のグループの中には「上海ポップコーン」や「Buchi-Mega」などがあり、アカペラグループの集まるライブやストリートライブで活躍していました。



「GARDEN」集合

毎週水曜日に活動をしますが、土日には様々な場所でアカペラの輪を広げています。

〈主なスケジュール〉

- 四月〜六月 新入生歓迎イベント
- 五月 大学の春フェスライブ
- 八月 夏合宿
- 九月 学外フェスティバルに参加
- 十月 ストリートライブ
- 十一月 大学祭ライブ
- 十二月 Winter LIVE
- 三月 卒業ライブ

また、Twitter/Instagramを通して沢山の方に活動を紹介しています。

ストリートライブなどで見かけたら、応援してください。

## 「全日本ベテラン選手権」への道



元静岡県職員  
元行政部会代議員  
田中 清吾  
(昭和45年・小卒)

静岡県職員を退職し、毎日をどのように過ごしていたら良いのか、随分悩みました。生涯学習大学やボランティア活動に参加したり、墨絵などの新しい趣味にも取り組んだりしました。しかし、どれもいまひとつ充実感を得ることができません。「自分は一体何をやりたいんだ？」自問自答を繰り返す中で、小さかった頃のことを思い起こしてみました。その頃、自分が一番楽しめたのは草野球やドッジボールなど、体を動かすことでした。それもボールを使って遊んでいる時が、理屈なしで楽しかったのです。大学では「硬式庭球部」に在籍し、卒業してからも続けていたので、これを機に本格的に取り組んでみようと思えました。

テニスの大会は、一般の部とベテランの部があり、35歳以上がベテランになります。5歳刻みのカテゴリーで、最高は85歳以上になります。オーバー65の部から始め、昨年叶って「全日本ベテラン選手権」に出場できました。

毎日をどのように過ごそうかと思いついていた頃に比べ、今はとても充実感があります。明日の朝が来るのが楽しみで、早い時間にベットに入ります。体調が悪くはテニスを楽しむことができます。そのため、食事・睡眠等生活を律します。お蔭で現在悪い所もなく健康であります。目標があると一日一日が楽しくなります。年齢を重ねることを嘆くことはありません。

逆に、オーバー80に入れる3年後は「全日本」でもっと活躍してやろうと、その日が来るのが楽しみなくらいです。



東海毎日ベテラン大会  
(東山公園テニスセンター)

既に退職されている方、数年後にリタイヤを控えている方の中には、「退職後の生きがい」を見つけないで悩まれている方もいるのではないのでしょうか。自分のやりたいことを見つけないというのは意外と難しいものです。私の場合「小さい頃の自分を振り返る」ことでそのヒントを得ることができました。

私の個人的経験であります。皆さんが豊かな晩年を過ごすための参考になれば幸いです。

## はじめての「一歩・二歩・散歩



元 浜松市立  
大平台小学校 校長  
高井 文代  
(昭和46年・小保体卒)

人生百年時代をどう充実させていけばよいのかは、自分時間が沢山できた退職後の課題でした。そこで十年を一つのステージと考え、第一ステージは「頼まれたら断わらない」：教育委員会や区役所の職員・人権擁護委員・同窓会役員をする中で、第二ステージ「ボランティアをする」に役立ちそうな事を始めました。

まずは、ボランティア研修会・リハビリ病院主催の健康体操・認知症やフレイル予防・脳トレの講習会等費用もかからず自分のためにもなる事を広報誌やチラシから探して受講しました。並行して今までやれなかった事、やってみたい事を体験会や同好会の見学をして、実際にやってみてから入会しました。オカリナ・着付け・手品・編み物・エアロビ・卓球・俳句・短歌・絵手紙・歌う会等とあれこれやってみて、四つを続けています。

絵手紙教室では「ヘタでいい」という言葉に励まされ、筆だけでなく割り箸や小枝で下書き無しの絵や字を書いたり、墨ではなくコーヒード

懐かしい物を書いたりして、月一回の活動を楽しみに続けています。

ボランティアは、児童会で元気な子どもたちの学習支援・遊びや見守りの手伝い。歌う会では、簡単な振り付けをして運動不足解消に少し役立つ気がします。高齢者施設での活動は、コロナで中断してしまいましたが、依頼があれば再開する予定です。

おかげで毎日の散歩だけでなく、「行く所とやる事」が増えました。高齢になってもやってみたい事は、色々あるし、経験を生かして役立つ場もあります。どうしようかと迷った



ら、まずやってみる、行ってみる事が、はじめの一歩になると思います。



# 歌画集「青い風」



元 浜松市立  
瑞穂小学校 校長  
森 都子  
(昭和41年・小国卒)

またひとり幼なじみの旅立ちぬ  
「あの子を返せ 花いちもんめ」

大学を卒業してから58年になります。気が遠くなる程の時間が過ぎたと思ったり、つい昨日のように思ったりします。このところ同級生がジグソーパズルのピースが欠けていくように一人、またひとりと旅立っていきます。そんな退職後の生活について「今、なにしている？」と問われたら「うーん。絵を描いているかな、それとも短歌をひねっているかも。」と答えます。「何してる？」の答えが「絵」と「短歌」になったいきさつを紹介して、「青い風」の「著作等紹介」に替えたいと思います。

## ○絵について

私の新任校は市の中心部にある大規模校でした。あこがれだった「先生」になれた私は胸をふくらませて赴任しました。夢はすぐ破れました。「学級担任」ではなく、いわゆる担任外でした。授業は図工の授業だけでした。鬱々と日を過ごし、フテクサレていました。当然授業も心のこ

## ○短歌について

退職して十数年が過ぎ、教師だったことさえ忘れかけた頃、母が逝きました。九十五歳でした。十九で結婚し、二十一歳で戦争未亡人となっても、笑顔で私を育ててくれた母でした。悲しむ余裕ありませんでした。ほんやりとして「感じないこと

にしました。そんな時「短歌やらない？」と誘ってくれた友人がいまいた。巷には「千の風になって」《新井満(訳詞・作曲) 秋川雅史(歌)》が流れていました。人は死んだら風になる。母も千もの姿になっていつも自分のそばにいる。今日の母はどんなかしら……短歌を作ることは、思いを言葉に託して、それを誰かに知らせることだと思えました。

何色の風になりしか母偲び  
空を仰げば青い風吹く

この本の表題はこの短歌からとりました。『青い風』は母恋歌集だね。」と評した人がいました。歌集に収めた三十首のうち半数が風や母を詠んでいるからです。



短歌 森 都子  
画 鈴木貴博

末筆になりました。

この本は「歌画集」です。三十首のつたない短歌に三十の清逸な絵が寄り添って来ています。素敵な画を提供してくださった鈴木喜博さん。はかつて同じ画塾で学びました。現在「一水会」会員で有望な画家です。

**70 挑戦** つながりをもって、健康・幸せ・仲間づくりへ

一般財団法人  
**静岡県教職員互助組合**

健康支援  
保健事業

経済支援  
給付事業  
貸付事業

生きがい支援  
厚生・文化事業  
相談事業  
公益事業

静岡県葵区駿府町 1-12 静岡県教育会館 2F TEL 054-254-3626  
互助組合ホームページは、  で

**子どもの未来を支える!**  
子どもを励まし、子どもを育てる教材・教具を提供

**静岡県学校生活協同組合連合会**  
静岡市駿河区登呂六丁目1 4番2 7号  
TEL (054) 282-2166 FAX (054) 284-0562

**教職員の安心・便利・満足をお届けする!**  
教職員の夢あるくらしのお手伝い

**静岡県教職員生活協同組合**  
静岡市駿河区登呂六丁目1 4番2 7号  
TEL (054) 282-2140 FAX (054) 282-9992

## Win・win・winの関係を



西伊豆町立  
仁科小学校 教頭  
寺川 雄一  
(平成5年・小社卒)

「久しぶりに子どもたちと活動ができて楽しかったです。」

これは、地域の方が、二年生と一緒に大根の漬物づくりをした後、帰りがけに言ってくれた言葉です。

前任校では、コミュニティ・スクールを設置し、地域の方の協力のもと、子どもたちがさまざまな

体験活動をしてきました。わたしは、地域学校協働本部と学校との橋渡役として、積極的に活動を推進していこうと考えていました。

当日は、地域の方と協働本部のスタッフが子どもたちと一緒に活動しました。大根の皮をむいたり、味見しながらつけ汁を作ったり、子どもたちは、初めての体験に興味津々で活動を進め、大満足で終えることができました。

終了後の地域の方の言葉に、わたしもうれしくなりました。子ども、地域、それをつなぐ協働本部や教頭、三者がともにうれしい気持ちになる、こんな活動がどの学校でも進められるといいですね。

## ピンチをチャンスに



裾野市立  
南小学校 教諭  
田中 大輔  
(令和4年・数学卒)

私が初めて担任したクラスは、「聞く姿勢」に課題がありました。

そんな中、忘れられない出来事が起こりました。突然、声が全く出せなくなりました。私は、声を使わずに、どうすれば伝わるのかを考えました。板書以外にも、ジェスチャーや間の取り方など、普段何気なくしていたことを意識

的に行いました。すると、子どもは耳をすませて私の一挙手一投足に集中し、「こう言いたいんじゃないかな？」と思いを汲んでくれる子どもまで現れました。気付けば、全身で聴き、自分事として考える子どもたちの思いやりの気持ちによって、このピンチを切り抜けていました。子どもの持っている力を感じた瞬間でした。

まだ、一年目を終えたばかりですが、教員生活の大変さだけでなく、嬉しさや感動の大きさも体験できました。

これから、どのような子どもたちの成長の場面に立ちあえるのか楽しみます。

## 伴走者として



静岡市立  
城内中学校 教頭  
白鳥 達也  
(平成9年・小教卒)

大学卒業後、中部地区小学校教員の中で唯一、特別支援学級担任として採用された。戸惑いの中、教育の原点である特別支援教育の多くを学ぶことができた。その後、通常学級の担任として積極的に特別支援学級児童を受け入れ、聴覚特別支援学校との交流や、教頭として医療的ケア児への対応も経験

した。私の教育観・児童生徒観は、これらの経験から培われている。

現在、特別支援教育は、法の改正、教員養成や免許、就学先決定、交流や通級による指導、インクルーシブ教育における国連勧告など、いくつもの振り子が振られ、まだ課題が多い。このような中で、最適解を見つけ対応していくには、児童生徒・保護者の願いを丁寧に聞き、多様な学びをどのような場でどう支援していくかを適切に見極める必要がある。これからは児童生徒の伴走者として、誰一人取り残さない教育の実現を目指す。そして、志を同じくする仲間が増えることを、切に願っている。

## 縁



牧之原市立  
相良小学校 教頭  
渡邊 瑞穂  
(平成4年・小国卒)

この春の異動で初任校に戻ってきた。三回目の本校勤務である。

初任から三十年が経ち、社会は大きく変化した。学校教育で育成すべき資質・能力や、社会に求められる人材も三十年前とは違う。教職という仕事は、これまでになく多忙で、心が折れそうになることもしばしばある。

しかし、そんなとき心の支えとなっているのが、子どもたちの笑顔や保護者、地域の皆様からの温かな声掛けである。

最初の教え子たちが保護者となり、保護者だった方たちが、地域の役職に就いていたり、学校ボランティアとなつて学校を支えてくださったりと、立場は変わっても、縁を結んでくれている。

「先生、お帰り」「待ってたよ」そんな言葉を掛けてくれる方も多し。これまでの縁に感謝しながら、新たな縁を結んでいけるよう精進していきたい。そんなことを思いながら、初任校での日々を過ごしている。

「働く」ことが出来るのは



磐田市立  
豊田南小学校 教諭  
青葉 紀子  
(平成15年・国語卒)

気付けば、教職二十年目を迎えている。教職を続けるうちに、結婚、子育て、人間関係、体調不良など、様々な事情で教職を去る仲間がいた。私よりもずっと教職に向いている人が退職という選択をするたびに、淋しさと共に自分は今働く環境に恵まれていることに気が付かされる。助言や励ましの言葉

をくれる先輩、教材研究に付き合ってくれる同僚、未熟な授業ながらも、「素直に伝えてくれる子どもたち」「先生も大変ね」と温かく見守ってくれる保護者や地域。そして、何より仕事に集中できるように生活を支えてくれる家族。こうした環境のおかげで、私は仕事を続けられているのだとつくづく思う。

新年度が始まる日。教職を去った仲間から、今年も「頑張れ」のメッセージが届く。自分一人で仕事をしているのではないのだということを忘れず、恵まれた環境に感謝し仕事に向き合っていきたい。

退職後に教職体験を生かす



関東支部・東京都在住  
元 荒川区小学校 校長  
松崎 勝  
(昭和49年・小社卒)

東京の地はとうとう終の棲家になりました。私は静大が片山に移った頃の入学です。田舎町に育ったせいかわ、静岡県人は言うに及ばず関西や関東からやってきた多様な人間との交わりに翻弄されっぱなし。それでもいつも何かが生まれそうでわくわくして過ごしてきました。その後、東京で教

職に就きました。今にして思うと優秀な教員ではなかったし、管理職の方があって良かったようにも思います。しかし、退職時までのめり込むように実践・研究してきた特別活動だけは、その後の人生で役立つという実感でできます。今は自治会役員として教務主任のような役割を担っています。コロナ禍にあっても子どもや高齢者を対象にしたランチ会やお花見会、ウォークラリーなどを特番化して事業化しました。自治会は学校以上に多様な人たちが集う社会です。教職体験は大いに役立ちます。教職に在る皆さん、退職後は地元で教職で体得した力を生かしてみませんか。

貴重な経験を糧として



静岡県総合教育センター  
高等学校支援課教育主査  
鈴木 俊士  
(平成14年・技術卒)

高等学校工業科では、安全で安心な信頼できるものを製作するなどの学習活動、ものづくりに関する知識を産業現場の具体的な事例と関連付けて分析し、考察して課題を解決するなどの学習活動が大切であるとされる。

教員としても、産業現場を知ることにより、工業製品の生産工程

や製品開発の重点を意識でき、ものづくりが社会に果たす役割を、より効果的に生徒に伝えられるものと考えます。

数年前に、民間企業で一年間の派遣研修の機会をいただいた。実物の工業製品を目の前に、安全で安心な製品開発の手法を経験して、確実に視野が広がった。概念的な工学の知識に加え、産業現場の安全意識、開発プロセスを踏まえた教科指導を意識するようになった。産業現場で学んだ、工業製品を提供する視点をもったものづくりの貴重な経験を、高等学校工業科教育充実のために役立てたい。

学校ができることは



兵庫県朝来市立  
朝来中学校 教諭  
塩谷奈生子  
(平成31年・音楽文化卒)

私は大学を卒業後、2年間民間企業で働いた後に現在勤務している中学校の教師になりました。小規模校なので、専門の音楽の他に家庭科や特別支援学級の数学も教えています。それまで描いていた教師像とかけ離れた現実に戸惑うこともありましたが、生徒のふとしたひと言に元気をもらっています

教師生活2年目になった今、「苦労が九割、喜び一割。その一割のために頑張っているんだよ」という先輩教師の言葉が分かるようになりました。

この一年は、教室や学校へ行きづらい生徒と関わったり勉強させていただったりする機会が多かったです。生徒が抱えている問題は様々ですが、相手の反応を敏感に感じ取りすぎてしまったり、自分に自信がなかったりする生徒が増えていくように感じます。できることは限られています。学校が「自分を受け入れてくれる居心地がいい場所」になるよう日々努力したいと考えます。

## 令和5年度 静岡大学教育学部同窓会 方針

- 1 目的
  - (1) 会員相互の親睦を図ること
  - (2) 地域の教育の発展に寄与すること
  - (3) 静岡大学・教育学部を支援すること
- 2 重点事業
  - (1) 支部事業の充実・発展の基盤づくり
  - (2) 静岡大学・教育学部への支援強化
  - (3) 同窓会誌「おおや」の充実
  - (4) 組織基盤強化に向けて
  - (5) 財政基盤の安定化に向けて

## 令和5年度 静岡大学教育学部同窓会 支部事務局一覧

支部名	支部長名	事務局長名	郵便番号	事務局所在地	事務局	電話番号	FAX番号
賀茂	鈴木健五	須藤裕文	413-0304	東伊豆町白田436-9	自宅(事務局長)	(0557) 23-2879	(0557) 23-2879
田方	菊地勝義	堀江健司	410-2407	伊豆市柏久保425-1	修善寺南小学校	(0558) 72-0149	(0558) 72-9824
東豆	中西直美	陣内真弓	413-0231	伊東市八幡野976-1	伊東市立八幡野小学校	(0557) 53-0023	(0557) 53-4023
三島	鈴木真	三田修一	411-0044	三島市徳倉844-1	三島市立北上小学校	(055) 987-4646	(055) 988-2069
駿東	鎌野幸治	松本勝	410-1102	裾野市深良655	裾野市立深良小学校	(055) 992-0242	(055) 992-2433
沼津	唐國宏章	杉本雅弘	410-0806	沼津市本字丸子町752-11	沼津教育会館	(055) 964-5800	(055) 964-6060
富士	高橋晃	鈴木幸人	417-0801	富士市大淵2585-3	富士教育会館	(0545) 35-7575	(0545) 35-7576
清水	多田五郎	望月和彦	424-0114	静岡市清水区庵原町574-18	自宅(事務局長)	(090) 5110-5627	
静岡	高橋文乃	辻啓之	422-8034	静岡市駿河区高松2310	大里東小学校	(054) 237-0879	
志太	栗原仁	曾根豊	421-0214	焼津市中島1050	自宅(事務局長)	(054) 622-2993	(054) 622-2993
榛原	中村康幸	石間郁代	421-0412	牧之原市坂部468-1	坂部小学校	(0548) 29-0200	(0548) 29-1688
小笠	袴田充子	杉浦雅美	436-0017	掛川市杉谷734-4	小笠教育会館	(0537) 24-6385	(0537) 24-4071
磐周	久野緑子	速水徹	438-0834	磐田市森下300	磐田市立豊田南小学校	(0538) 32-5273	(0538) 34-4736
浜松	齊藤昌長	藤井信男	433-8104	浜松市北区東三方町149-2	浜松市教育会館	(053) 482-7640	(053) 482-7641
湖西	鈴木康弘	堀尾光宏	431-0428	湖西市ときわ1丁目1-53	自宅(事務局長)	(053) 577-3055	(053) 577-3055
高校	松本一真	平岡康伸	424-0037	静岡市清水区袖師町91-2	自宅(事務局長)	(054) 340-8032	
特支校	杉山祐子	山村仁	426-0062	藤枝市高岡一丁目6-5	自宅(事務局長)	(090) 2947-1564	
関東	渡邊恒雄	岡崎里司	257-0004	神奈川県秦野市下大槻348-7	自宅(事務局長)	(0463) 78-3098	(0463) 78-3098
愛知	鬼頭香代	小田切由美	456-0004	名古屋市熱田区桜田町15番2-702号	自宅(梶田理事宅)	(052) 871-1286	(052) 871-1286
行政	佐野牧夫	堀内明美	419-0205	富士市天間723	自宅(支部長)	(0545) 71-4066	
県本部	会長 山田幸男	大高千尋	420-0856	静岡市葵区駿府町1-12	静岡県教育会館	(054) 253-6318	(054) 253-6334

## 令和5年度 事業計画

4月	19日：第1回総務会 21日：会計監査	8月	9日・10日：二次試験前事前面接指導（静大にて） 18日：同窓会誌「おおや」郵送作業
5月	15日：第2回総務会 第1回理事会 23日：第1回組織財政検討委員会 25日：会長学部長訪問 27日：全学同窓会2023東京交流会	9月	11日：第3回組織財政検討委員会 25日：第5回総務会・第2回役員候補者推薦委員会 10月から11月 静大教育学部附属小中学校研究協議会
6月	10日・17日：一次試験前面接指導（静大にて） 19日：役員候補者推薦委員会 26日：第3回同窓会誌「おおや」編集会議 29日：第3回総務会 第1回静岡大学教育学部との協議会 大学での講義（道徳指導）参観（本部役員）	10月	17日：第4回組織財政検討委員会 25日：同窓会誌「おおや」第1回編集委員会
7月	1日：令和5年度定期総会並びに第2回理事会 8日：第4回総務会 第1回支部長・事務局長会 第2回組織財政検討委員会（意見聴取） 24日：第4回同窓会誌「おおや」編集会議	11月	第5回総務会 第2回 静岡大学教育学部との協議会 27日：第3回役員候補者推薦委員会
		12月	22日：第2回同窓会誌「おおや」編集委員会
		1月	22日：第7回総務会・第3回理事会
		2月	3日：第8回総務会・第2回支部長・事務局長会
		3月	4日：第9回総務会 23日：静大教育学部学位記伝達式

同窓会誌「おおや」  
67号 原稿募集

◇令和6年9月1日発行予定（締め切り…令和6年4月末日）

- 会員の皆様のご投稿や、ご推薦をお待ちしております。
- ・会員日より
  - ・学校での研究成果
  - ・特色ある卒業生や実践
  - ・作品や著作物
  - ・など
- まずは事務局にご一報ください。

同窓生の連絡受付

関東支部・愛知支部同窓生の皆様へ

◇東京都・茨城県・神奈川県等関東地区、  
愛知県・岐阜県等東海北陸地区にお住いの  
同窓生の皆様の支部会員登録をお願いします。  
教員以外の皆様もぜひ、各支部にご連絡ください。  
22ページの事務局連絡先をお願いします。

令和6年度のお知らせ

同窓会定期総会のお知らせ

◇担当 富士支部

◇日時 令和6年6月15日（土）富士市交流プラザ

◇講演 村山 功 教授（静岡大学教育学部）

※詳細は改めて、HPでご案内いたします。

全学同窓会2024静岡交流会のお知らせ

※詳細は改めて、HPでご案内いたします。

静岡大学教育学部同窓会HPについて

- ・事業予定と報告
- ・同窓会誌「おおや」電子版
- ・支部からのお知らせ など

※HPから

「住所・改姓届など」

もできます。

どうぞご利用ください。



◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

年一回発刊の本誌「おおや」。新しい情報を掲載できない、という悩みを払拭するたしかな実践活動や報告に心を強くします。

（編集委員長 林 のぶ）

今回も、まっすぐ未来をみつめた原稿ばかりで、さすがだと感じています。おかげでいろいろな年齢や分野での活躍が見えます。

（担当副会長 小長井邦男）

会員の皆様のたよりがいっぱい詰まった「おおや」から、人と人とのつながりの大切さを感じていただくと幸いです。

（K・M）

諸先輩方の努力による伝統・次代に引き継ぐことの大切さを痛感しています。退職しているからこそできることを考えます。

（K・H）

多彩な同窓生・OBの活躍・会員日より等々一読すると勇気が湧いてきます。ぜひ多くの方にお読みいただきたいです。

（K・K）

自分らしさを大切に、周りの方を笑顔にする素敵な取組に、背中を押していただき、有り難く思いました。

（N・T）

同窓会活動の概要や免許法の紹介も掲載しました。先進的な実践報告もご覧ください。

（事務局）

多くの先生方にご愛顧を頂き、教育新聞静岡支局は今年創業72周年を迎えました。

教育新聞静岡版



ご購入や見本紙のお申し込みは、下記の電話やメールにお願いします。  
月額購読料：全国版（月・木）静岡版（月2回）セット：3,132円（税込）

410-0012 沼津市岡一色101-40 / 電話：055-921-4072 FAX:055-926-2111  
メール：shizuokaban@icloud.com ※教育新聞では電話勧誘を一切行っておりません。



◇ 作品について ◇

人の心の中、その人らしさなど、表現するのは難しいです。私の作品は静かな中、動きの中に強さや優しさが表れるようにと、いつも制作しています。粘土で原型を作り、石膏でかたどりし、彩色したものです。

<表表紙> 「凜」

若い女性をモチーフにすることが多いのですが、この作品は、静かな中にもきりとした芯のある心を持つ女性として表現してみました。しっかりと前に歩いていく姿、その中にも優しさが表れていたら幸いです。

<裏表紙> 「TUMU」

幼児には、色々な姿があります。その中で、この作品は前を向いて“さあ、行くぞ”という強い感じに仕上げました。

あとけない中に未来を創っていく強さが出ているでしょうか。



野中 裕子  
(昭和 50 年・中美卒)  
県女流美術協会会員  
浜松美術協会会員

静岡大学教育学部同窓会誌 66 号

「おおや」 令和 5 年 9 月 1 日発行

発行 静岡大学教育学部同窓会事務局

〒420-0856 静岡市葵区駿府町 1-12 静岡県教育会館内

☎ 054-253-6318 FAX 054-253-6334

E-mail : sizukyo-dosokai@iaa.itkeeper.ne.jp

U R L : <https://ed-ohya.org>

制作 八千代印刷株式会社

【編集部】 林 のぶ・小長井邦男・倉澤眞澄・片瀬恵子  
川島広己・長野恭江・事務局